８農総試第９４－８号
令和８年１０月３０日

関　係　各　位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和８年度病害虫発生予報第８号（11月）
令和８年度病害虫発生予察注意報第 10 号

担　　当　環境基盤研究部病害虫防除室
電　　話　0561-41-9513
ファックス　0561-63-7820

令和８年度病害虫発生予報第８号（11月）

令和８年１０月３０日
愛　　知　　県

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	ミカンハダニ	**多い**	県全域	10月下旬の発生量は多い	＋

・防除対策

〔ウンシュウミカン・ミカンハダニ〕

ほ場での発生状況を確認し、発生が多い場合は収穫前日数に注意して、ダニオーテフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

ナシ黒星病の発生が多くなっています（秋型病斑を確認）。秋に黒星病菌が芽の鱗片に感染すると翌年の発生源となるため、オキシラン水和剤などで収穫後に防除しましょう。また、罹病葉も発生源となるため、落ち葉をほ場外へ持ち出すか、ロータリーをかけるなどして落ち葉を砕いて土中に埋めましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ	軟腐病	平年並	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない 11月の降水量は平年並か多い	－ ±～＋
	べと病	**やや多い**	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	アブラムシ類	平年並	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない 11月の気温は高い	－ ＋
	コナガ	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
キャベツ	黒腐病	平年並	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない 11月の降水量は平年並か多い	－ ±～＋
	菌核病	**やや多い**	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	コナガ	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	黄化葉巻病	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない 10月下旬のコナジラミ類の発生量はやや少ない 11月のコナジラミ類の予想発生量は平年並	－ － ±
	コナジラミ類	平年並	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない 11月の気温は高い	－ ＋
ナス (施設)	うどんこ病	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない	－
	ミナミキイロアザミウマ	**多い**	県全域	10月下旬の発生量は多い 11月の気温は高い	＋ ＋
キュウリ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	べと病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 (発生を確認していない) 11月の日照時間は平年並か少ない	±～－ ±～＋
	ミナミキイロアザミウマ	**やや多い**	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の気温は高い	± ＋
イチゴ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	**やや多い**	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の気温は高い	± ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
野菜共通	ハスモンヨトウ	**やや多い**	県全域	キャベツほ場における10月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	＋ ±
	オオタバコガ	**やや多い**	県全域	キャベツほ場における10月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	± ＋

・防除対策

〔ハクサイ・べと病〕

収穫前日数に注意して、ランマンフロアブルやザンプロＤＭフロアブルなどで防除しましょう。

〔キャベツ・菌核病〕

収穫前日数に注意して、カナメフロアブルやセイビアーフロアブル 20 などで防除しましょう。

〔ナス（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

本日発表の病害虫発生予察注意報第 10 号を参考にしてください。

〔キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

アファーム乳剤やコテツフロアブルなどで防除しましょう。

〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

９月２日発表の病害虫発生予察注意報第８号を参考にしてください。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

中齢以降の幼虫は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期に防除しましょう。10 月 16 日発表の「ハスモンヨトウ情報第３号」も参考にしてください。

〔野菜共通・オオタバコガ〕

10 月 16 日発表の「オオタバコガ情報第４号」を参考にしてください。

・留意事項

トマトキバガ（トマト、ミニトマト）について、過去２年に実施したフェロモントラップによる調査では、秋頃に成虫の誘殺数が増加する傾向でした。このため、ほ場をよく確認し、発生状況の把握に努めましょう。また、施設開口部に防虫ネット（目合 0.4㎜以下）を設置して施設内侵入を防ぐとともに、定期的に農薬による防除を行いましょう。なお、農薬の感受性低下を防ぐため、異なる系統の農薬をローテーション散布しましょう。

トマト黄化葉巻病（ＴＹＬＣＶ）はタバココナジラミにより媒介され、**トマト黄化病**（ＴｏＣＶ）はコナジラミ類によって媒介されます。発病株は抜き取り適切に処分するとともに、媒介虫の防除を徹底しましょう。

キュウリほ場における 10 月下旬の巡回調査では、コナジラミ類の発生量がやや多い状況でした。**キュウリ退緑黄化病**（ＣＣＹＶ）はタバココナジラミにより媒介されます。また、**キュウリ黄化えそ病**（ＭＹＳＶ）はミナミキイロアザミウマにより媒介されます。発病株は抜き取り適切に処分するとともに、媒介虫の防除を徹底しましょう。

ブロッコリー、キャベツの**黒すす病**が、近年、特に 11～12 月の発生が問題となっています。本病は下位葉から上位葉や花蕾へ伝染するとともに、降雨及び強風により発生が助長されます。一度発生が拡大すると防除が困難となるため、注意が必要です。早期発見に

努め、病徴が進行した株は処分しましょう。一部系統の殺菌剤に対する感受性が低い菌株を確認していることから、薬剤選択は指導機関に相談しましょう。

【キャベツ、ブロッコリー等のテンサイシストセンチュウ（Ｈｓ）まん延防止】
東三河地域の一部のキャベツほ場でＨｓの発生が確認されています。Ｈｓは農機具等に付着した土壌により移動します。作業後は、ほ場内で農機具等に付いた土をしっかり落とし、Ｈｓのまん延防止に努めてください。
また、坪状に生育不良が見られる等、Ｈｓの発生が疑われる場合は、最寄りの農業改良普及課もしくは農業総合試験場病害虫防除室へ御連絡をお願いします。

参考

東海地方　１か月予報（名古屋地方気象台 10 月 29 日発表）

〈予想される向こう１か月の天候〉
暖かい空気に覆われやすいため、向こう１か月の気温は高いでしょう。
低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう１か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

〈向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉
〔気温〕　低い　：１０％　平年並：４０％　高い：５０％
〔降水量〕　少ない：２０％　平年並：４０％　多い：４０％
〔日照時間〕少ない：４０％　平年並：４０％　多い：２０％